「貴重な環境将来に」

全国の大学生らが視察

唐桑町 舞根

全国の大学や専門学校で環境関連の学科を専攻している学生らが4日、気仙沼市唐桑町を訪れ、舞根地区の湿地やカキの養殖いかだなどを見学しながら、自然と暮らしのつながりを考えた。

北海道から関西地方までの大学生20人が、地元NPO法人「森は海の恋人」の畠山信副理事長らのガイドで視察した。

畠山副理事長は、東日本大震災で農地が地盤沈下してできた舞根湾近くの湿地に学生たちを案内した。

満潮になると舞根湾に注ぐ川を通じて海水が湿地に流入することなどを説明し、「絶滅危惧種のニホンウナギなどがよくみられる。こうした貴重な環境を将来に残していくことも重要ではないか」と問い掛けた。

この後、学生たちは船でカキの養殖いかだも見学し、山から川を通して運ばれる豊富な植物プランクトンが豊かな漁場を育んでいることを学んだ。

茨城大学農学部3年の木納勇佑さん（21）は「震災によって以前より豊かな自然環境がつくられたケースもあることが分かった。復旧・復興事業でかさ上げなどを行う際、本当に必要な工事なのかを幅広い視野で見極める必要があると思った」と話していた。

学生たちは、公益社団法人日本環境教育フォーラムが、大手家電メーカーNECとともに20年ほど前から実施している「NEC森の人づくり講座」の一環で訪れた。

舞根湾近くの湿地を訪れた大学生

近隣お別れ会

幸町1区

気仙沼市幸町1区の近隣お別れ会が、18日午前11時からゲストハウスアーバンで開かれる。

震災前、市民運動会の生活の厨みにしよう－と開く。

対象は震災前に幸町1区に住んでいた人たちで、参加費2千円。当日は歓談中心に交流を深める。15日まで事務局の鈴木孝太郎さん（電話23・8345）に申し込む。

鈴木さんは「現在の心境や今後の課題を語り合うとともに、かつての思い出話に花を咲かせて」と気軽な参加を呼び掛けている。

今日の運勢

27年2月6日
旧12月18日　金曜日

☆こよみ

今日＝新宮神倉神社火祭。

6輝＝大安。最高の吉日。結婚、旅行、建築、移転、開店など、何をするにも吉日。

12直＝とづ。閉じるを意味し、金銭の収納、建墓、便所造りにはよいが、結婚、開店、棟上などには凶。

28宿＝婁（ろう）宿。結婚の相談ごとや、契約、取引始め、造園などは吉。

☆生まれ月による運勢

1月　公私混同が命とりになる。信用こそが唯一の武器。栄養に注意せよ

2月　ムリはいけない。結果的には成り行きまかせが最上策。特に社交面

3月　弱気が最大の敵。図太さこそがピンチを克服するカギ。思い切って

4月　安請け合いがトラブルの原因になる日。親切もほどほどにすること

5月　重要問題は依然足踏み状態。無理をせずに時期を待て。じっくりと

6月　労多くして功少ない日。仕事面で欲張るとアテが外れる。控え目に

7月　すべて強気一貫で。ヘタに方針を変えると失敗する。前進あるのみ

8月　人の尻馬に乗ってケガしそう。行動はあくまで自主的に。腰に注意

「余が豊前の
あるそうだ
代わって
新見豊前
り、小姓、
歴任してき
坂学問所で
く、その能
行となって
「玉虫左太
肚に力を
「……なん
のところ
左太夫の
の声をあげ
「蝦夷地に
西亜語が少
「亜米利加
「学ぼうと
良いのやら
小さく左
なにせ、
ばかりであ